

「流域水循環計画」の中に、総合治水あるいは流域治水を内容とする計画があってもよいのではないか。近畿地方の地方自治体では、条例で定めた内容を実質化するためのいくつかの地域計画が実施されている。

- 兵庫県の総合治水条例(H24)：地域総合治水の推進、流域対策、調整池、雨水貯留、森林整備等。
- 滋賀県の流域治水条例(H26)：地先の安全度、「ためる」対策（雨水貯留対策、地下浸透対策）、安全な住まい方等。
- 奈良県の総合治水条例(H30)：控える地域等、浸水の可能性の高い土地の市街化を制限する等。

たとえば、兵庫県ではこの条例にもとづき、「神戸（表六甲河川）地域総合治水推進計画」を設定して、地域の総合治水を推進することとしている。

1

<p>土木学会 流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会 Subcommittee on Cooperation between watershed management and regional planning, JSCE</p> <p>ホーム・部会メンバー・活動記録</p> <p>小委員の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本小委員会は、土木学会水工学委員会と土木計画学研究委員会の研究者からなる両委員会共同所管の小委員会として平成14年10月7日に設立されました。 ・ 河川は、治水・利水・環境といった多様な側面で地域と密接な関わりを持っており、そこに生じる諸課題には、水工学と土木計画学とが連携をして取り組むべき課題が多く存在します。本小委員会は、河川をキーワードに、流域管理と地域計画の連携の視点から取り組むべき研究について幅広く議論を展開し、連携研究の活性化、新たな研究テーマの発掘を目指します。 ・ 本小委員会は、水工学と土木計画学に携わる研究者および都市と河川行政関係者が今後の流域管理と地域計画の具体的な連携方策について議論し、国土交通省水管理・国土保全局の河川防犯技術研究開発制度等と連携して特定課題について共同研究等を実施することにより、流域管理と都市・地域計画の相互連携による総合的な街づくりの実現を目指します。 <p>お知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度 第6回流域管理と地域計画の連携に関するワークショップを開催します。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 日時:平成30年12月11日(火) 14:00-17:30 ○ 場所:土木学会講堂 ○ プログラム(土木学会継続教育(CPD)プログラム、認定番号:JSCE18-1327、単位数:3.5単位) 1. 趣旨説明 2. 基調講演 <ul style="list-style-type: none"> ■ 阪本 真由美(兵庫県立大学 准教授):平成30年7月豪雨災害 岡山県倉敷市における避難行動 ■ 大原 美保(土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター):滋賀県における水害リスク情報を活用した新たなまちづくり手法の減災効果及び課題の動的変化 ■ 林 祐樹(奈良県 県土マネジメント部河川課):奈良県大和川流域における総合治水推進条例について 3. 話題提供 <ul style="list-style-type: none"> ■ 国土交通省砂防部:平成30年7月豪雨における土砂災害 ■ 国土交通省都市局:最近の都市施策状況 ■ 国土交通省下水道部:平成30年7月豪雨を踏まえた都市浸水対策 4. 総合討議 <ul style="list-style-type: none"> ■ フェシリレーター:小池 俊雄(土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター長) ■ パネリスト(五十音順):講演者、滋賀県、流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会メンバー ・ 申込先:国土交通省水管理・国土保全局河川計画課 WSI担当 <ul style="list-style-type: none"> ○ 締め切り:平成30年11月30日(金) ○ メールにてお申し込みください。その際、ご所属・勤務先、お名前、電子メールアドレスをお知らせください。 ○ Tel: 03-5253-8446, E-mail: hgt-kasengiyutu@ml.mlit.go.jp ○ 定員(100名)に達した場合は締め切らせていただきます。お早めに申し込みください。 ・ 過去のワークショップの記録はここからご覧ください。

2

利水・治水一体の技術開発と人材育成

■ 既設のダム貯水容量の最大限有効活用技術の開発

利水容量をどれだけ洪水調節容量に回せる可能性があるか、気象予測精度、ダム貯水池機能（利水容量、洪水調節容量、放流設備）、空振りリスクの観点から分析して、利水に配慮した新たなダム操作手法を開発し、操作規則を変更する。

■ CommonMPを用いた標準的な水循環計算ツールの開発と調査・研究、技術開発への利用・普及

水循環計算に必要となる基本的な要素モデルを用意し、水循環に係る技術者が自ら水循環に関連する予測計算を実施できるような環境を整える。これらを用いて水循環に係る人材育成に寄与する。

3

淀川水系の桂川上流の日吉ダムの操作

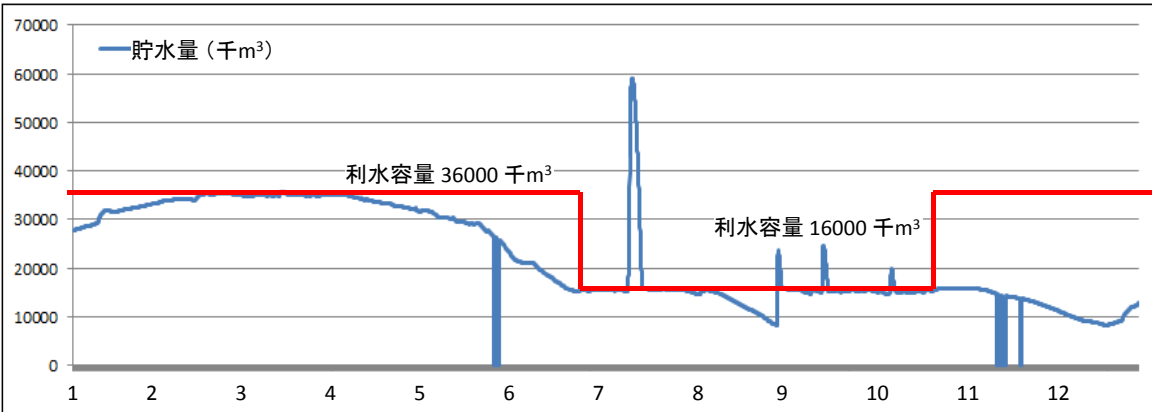
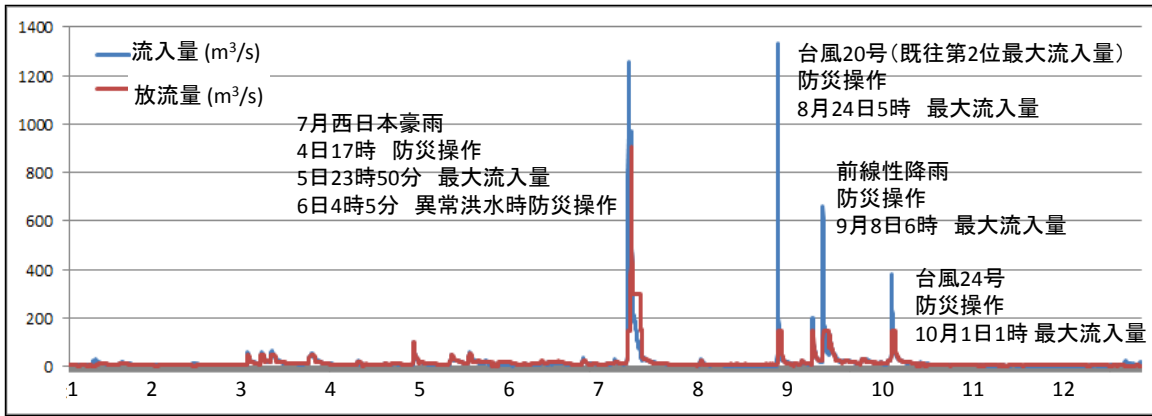


国土交通省近畿地方整備局: 平成25年9月台風18号洪水の概要より



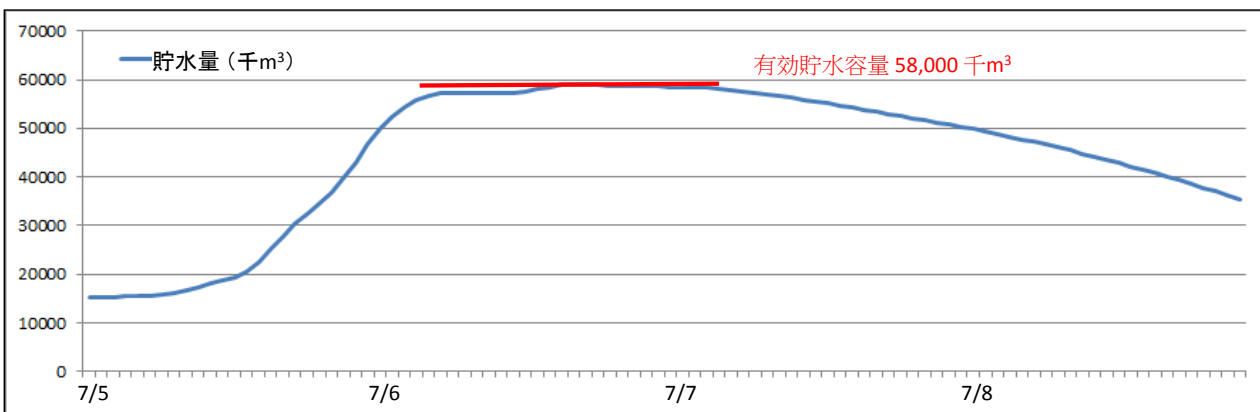
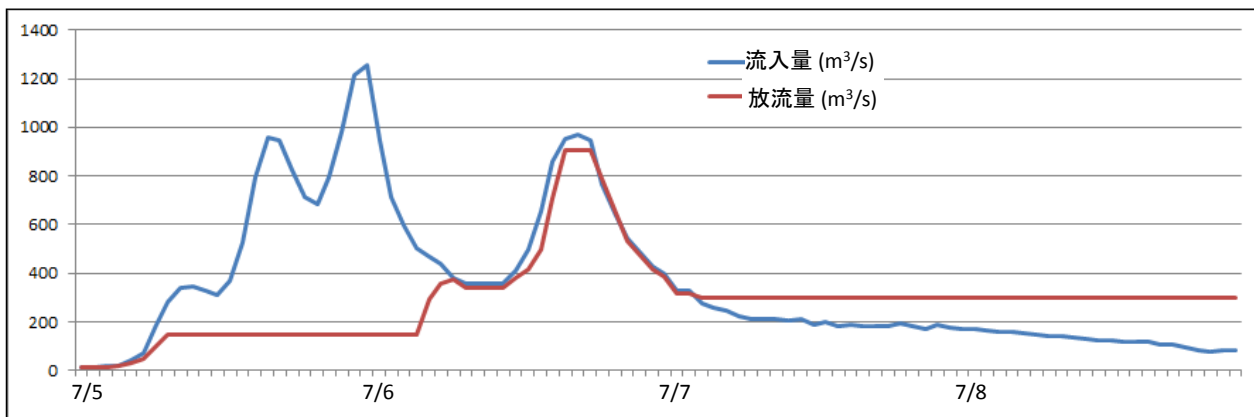
水資源機構ホームページより

2018年の日吉ダムの貯水池操作



水文・水質データベースから得たデータでグラフ作成

2018年7月西日本豪雨のときの日吉ダムの操作



水文・水質データベースから得たデータでグラフ作成



- サイトナビゲーション
- インフォメーション
- ヘルプデスク
- ソフトウェアライブラリ
- ダウンロード (3ヶ月以内)
- ドキュメント (資料)
- イントロダクション
- 教材集・講演会資料
- 論文・活用事例
- コミュニティー
- CommonMP Wiki
- プロジェクト関連予定表

内閣府沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所管内ダムの洪水調節効果資料作成に、CommonMPが活用されています。

やんばるのダム
沖縄の自然豊かなやんばるの島に

内閣府 沖縄総合事務局
北部ダム統合管理事務所

ダム資料室
Dam reference library

やんばるのダム ダム資料室 知る・学ぶ ダムツーリズム 入札契約情報 事務所の紹介

過去の洪水調節効果

平成29年度 国管理ダムの効果

- 2017/06/19 国管理ダムの効果 (国管理ダム: 平成29年6月19日降雨前線に伴う降雨について) [\[PDF: 2446KB\]](#)
- 2017/06/19 国管理ダムの効果 (国管理ダム: 平成29年6月19日降雨前線に伴う降雨について) [\[PDF: 2246KB\]](#)
- 2017/06/19 国管理ダムの効果 (国管理ダム: 平成29年6月19日降雨前線に伴う降雨について) [\[PDF: 2656KB\]](#)

CommonMPとは

CommonMP (Common Modeling Platform for water-material circulation analysis) は、水理・水文現象等の複合現象を解析するために、さまざまな異なる現象を再現する要素モデルを結合して一体的に協調・稼働させ、河川流域の複合現象をシミュレーションするための基盤ソフトウェアです。CommonMP上では、互いの演算時間間隔が異なる要素モデル同士を結合しても、水文データ等を交換しながら演算を進めることができます。CommonMPの要素モデルは、開発仕様が公開されているので、誰でも開発することができます。この特徴により、CommonMPを用いると、異なる開発者が開発した降雨流出モデル、河道洪水追跡モデル、氾濫解析モデル等を結合して、開発者同士が協力しながらシミュレーションを実施することができます。CommonMPは、様々な水理・水文現象等の複合現象のシミュレーションの実施や解析モデルの開発を促進するための仕組みを提供しています。

Dec 2018

Su	Mo	Tu	We	Th	Fr	Sa
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

CommonMP Ver.1.5.0

CommonMP Ver.1.5が公開されました。
x64, x86

水文水質データ取得ツールの提供

CommonMPのから水文水質データをダウンロードできるプラグインツールを提供します。

水・物質循環解析プラットフォーム
CommonMP

iRIC Software
Changing River Science

国土交通省水運・国土保安局

国土技術政策総合研究所

土木学会 **JSC**

建設コンサルタンツ協会 **JCA**

CommonMPを用いた標準的な水循環計算ツールの開発と調査・研究、技術開発への利用・普及

The screenshot displays the CommonMP software interface. The main window shows a project structure diagram with various components connected by arrows. Labels point to specific parts of the diagram: '入力要素モデル' (Input Element Model), '演算要素モデル' (Calculation Element Model), '出力要素モデル' (Output Element Model), and '接続要素' (Connection Element). A table at the bottom lists calculation elements with columns for ID, Name, User, Model, and Time Step.

ID	名前	ユーザー	接続モデル	演算モデル	タイムステップ
E250	氾濫	ユーザー要素	総境モデル		60
E355	氾濫	ユーザー要素	NLJM6D氾濫解析モデル		1
E6017	流域1	流域要素	貯留関数モデル		3600
E6117	流域2	流域要素	貯留関数モデル		3600
E6217	流域3	流域要素	貯留関数モデル		3600
E6317	流域4	流域要素	貯留関数モデル		3600
E6417	入川	入川要素	河道貯留関数モデル(国管)		3600

On the right side, there is a 'プロジェクト管理' (Project Management) panel with fields for project name, ID, and other details. Below it is an '要素モデル管理' (Element Model Management) panel showing a list of available models and their properties.